

2023年度 マネジメント学部
学校推薦型選抜・指定校推薦型選抜問題

国語基礎問題

2022年12月実施

出題科目	ページ	解答番号
国語基礎問題 (100点)	4～13	1～30

注意事項

- 1 選抜開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- 2 問題は4～13ページである。
- 3 選抜中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 選抜番号欄
必ず選抜番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ② 氏名欄
氏名及びフリガナを記入しなさい。
- 5 必要事項欄及びマーク欄に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあるので注意すること。
- 6 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**35** と表示のある問いに対して⑤と解答する場合は、次の(例)のように解答番号35の解答欄の**(5)**にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
35	(1) (2) (3) (4) 5 (6) (7) (8) (9) (10)

- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

国語基礎問題

(解答番号

1

～

30)

I 次の問いに答えなさい。

問一 次の a ～ e の下線部と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **1** ～ **5**。

a ソカク人事

1

- ① 侵入をソシする。
- ② ソゼイ義務。
- ③ 応急ソチ。
- ④ 鮭のソジョウ。
- ⑤ 人体の元素ソセイ。

b 外交セツシヨウ

2

- ① 端午のセツク。
- ② 栄養のセツシユ。
- ③ セツカクの機会。
- ④ 期限のセツパク。
- ⑤ セツジヨクを果たす。

c サイカに遭う

3

- ① カドウ人口。
- ② スンカを惜しむ。
- ③ カコンを残す。
- ④ 責任テンカ。
- ⑤ カヘイ価値。

d 手当をフンパツ

4

- ① コウフンする。
- ② 前方後エンフン。
- ③ フンコツ碎身。
- ④ 店のフンイキ。
- ⑤ 火山のフンカ。

e 情報のロウエイ

5

- ① 詩のロウドク。
- ② ロウバシンながら。
- ③ ロウム管理。
- ④ 時間のロウヒ。
- ⑤ イロウなく進める。

問二 次の f、g、j の語句の読み方として正しいものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は f | 6、g | 7、h | 8、i | 9、j | 10。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| f | 翻弄 | ① | ハンソウ | ② | ハンヨウ | ③ | ホンヨウ | ④ | ホンロウ | ⑤ | ホンソウ |
| g | 枢要 | ① | スウヨウ | ② | クヨウ | ③ | オウヨウ | ④ | ヘンヨウ | ⑤ | キュウヨウ |
| h | 瓦解 | ① | コウガイ | ② | ガカイ | ③ | ガレキ | ④ | カガイ | ⑤ | コウカイ |
| i | 頒価 | ① | コウカ | ② | ハンカ | ③ | フンカ | ④ | ブンカ | ⑤ | ヘイカ |
| j | 普請 | ① | フゼイ | ② | フセイ | ③ | フツセイ | ④ | フシン | ⑤ | フウシン |

問三 次の k、o の意味が示す四字熟語を、後の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は k | 11、l | 12、m | 13、n | 14、o | 15。

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| k | 【意味】 | 大衆の意に反した無責任な言論が威力を持つこと。 |
| l | 【意味】 | 意思が強くものに動じないこと。 |
| m | 【意味】 | 非常にけしからぬこと。 |
| n | 【意味】 | 心が乱れ落ち着かないこと。 |
| o | 【意味】 | 宇宙に存在するものすべて。 |

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | 生々流転 | ② | 奇怪千万 | ③ | 慇懃無礼 | ④ | 一所懸命 | ⑤ | 森羅万象 |
| ⑥ | 堅忍不拔 | ⑦ | 心神耗弱 | ⑧ | 浮石沈木 | ⑨ | 悪逆無道 | ⑩ | 心猿意馬 |

問四 次のp、tがそれぞれ示す意味の言葉となるよう「○」や「○○」に入る適当な言葉を、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマ

ークしなさい。解答番号は p | 16、 q | 17、 r | 18、 s | 19、 t | 20。

p 濡れ手に○：【意味】何も苦勞せずにお金をもうけたり、利益を得たりすること。

- ① 綿
- ② 米
- ③ 稗
- ④ 粟
- ⑤ 塩

q ○○の筈…【意味】似たようなものが相次いで現れること。

- ① 晴天
- ② 早春
- ③ 晩秋
- ④ 竹林
- ⑤ 雨後

r ○○が利く…【意味】その場を見計らって、とっさにそれに応じた行動ができる。

- ① 目端
- ② 舌先
- ③ 機微
- ④ 手先
- ⑤ 鼻端

s ○を煮やす…【意味】物事が思い通り運ばず、いらいらする。

- ① 肝
- ② 業
- ③ 腸
- ④ 癩
- ⑤ 期

t ○を利かせる…【意味】その業界や社会で一目置かれていて、勢力をふるう。

- ① 目
- ② 気
- ③ 顔
- ④ 鼻
- ⑤ 幅

II 次の文章は、主著『エッセー』で知られる一六世紀フランスの思想家モンテーニュについて書かれたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

われわれは、その宗教が通用している国に、たまたま居合わせて、その歴史の古さやそれを守ってきた人々の権威を尊重しているにすぎないし、不信心者への脅迫を恐れたり、あるいは、その宗教が掲げる約束に従っているにすぎない。このような考慮は、われわれの信仰にもなされてしかるべきではあるものの、それは **a** でなくてはいけない。それらは人間の関係ということにすぎないのだ。別の地域に生まれ、別の証拠を示されて、似たような約束と脅迫とを突きつけられたなら、同様の筋道をたどって、正反対の信仰を心に刻みこむかもしれない。 **A** われわれがキリスト教徒であるのは、われわれがペリゴール人とかドイツ人であるのと同じなのである。 (注1)

『エッセー』第2巻・第12章「レーモン・スボンの弁護」

モンテーニュが生きた一六世紀のヨーロッパは宗教改革の時代だった。そして世紀後半のフランスは宗教戦争という内乱の時代だった。キリスト教世界の内部で、カトリックとプロテスタントの両陣営が凄惨な闘いを繰りひろげたのだ。「三人のアンリの闘い」とも呼ばれる、フランス宗教戦争の最終局面では、まず「旧教同盟」のギーズ公アンリが暗殺され、次いで国王アンリ三世が暗殺された。そこでアンリ・ド・ナヴァールがアンリ四世として即位するが、やがて一六一〇年には、彼も暗殺されてしまう。

B このような陰惨な時代を生きた、ペリゴール人のモンテーニュは、宗教における党派の差を相対的なものとして見ようとする。右の引用の「ペリゴール人」はカトリックを暗示し、「ドイツ人」はルター派を暗示するのだが、たまたま生まれた場所が異なれば、われわれは別の宗派を信じたかもしれないではないか。宗派の差異などは、その程度のもんとして考えたらどうだろうかというのである。

彼にすれば、そのような「差異」は **b** すべきもの、あるいは認めるべきものなのである。

世間の人は、自分という存在にしたがって、他人に判断をくだすけれど、わたしはこうしたまちはいはいはしない。他人については、自分とは異なることとがずいぶんあるんだなと思うってしまうのだ。自分が、ある型にがちつとはまっていると感ずいてはいても、だれもがそうするように、それを人々に押しつけることはなくて、異なる生き方がたくさん存在するのだと思つて、そのように了解する。 **X**

『エッセー』第1巻・第36／37章「小カトーについて」

自分の「型」を他者に押しつける、あるいは自分の「型」から他者を判断して、排除に向かうこと。モンテーニュは、人間にありがちなそうした所作をしりぞけて、「差異」を受け入れる。ここで、「人間はだれでも、人間としての存在の完全なかたちを備えている」というモンテーニュのことを思い

出してほしい。

C 各人が人間存在として十全なかたちを備えているということは、人間の条件について、その多様性を担保していることになる。人間はさまざまな文化や環境のもとに生を享け、実人生を生きていくが、そのどれもが人間としての十分条件を備えているということだ。ハンディキャップを負っている人も、逆に「文化資本」に恵まれた人もいる。人さまさまなのである。

そうした多様な「個」が、**c** な人間存在を支えている。そうであるならば、そのような人間社会に寛容性があることは、当然の結果ということになるであろう。要するに、個の尊重が全体の尊重に、あるいは、モンテーニュ的にいうならば、「わたし」を重視することが、「あなた」を、つまり「他者」を尊重することと表裏一体となっているのである。

このような思考法は、モンテーニュなしでも、理性から導けるのかもしれないが、少なくともわたしは、『エッセー』を読むことで、こうした認識を獲得することができたということはいえる。

とはいえ、「類似」にこだわって群れを作り、「壁」を作り、「差異」を排除するほうが、ある意味で楽なのかもしれない。差異のある人々や、彼らの生活習慣を受け入れて共生すべきだと、口でいうのは簡単だが、真に実行するのはむずかしい。でもモンテーニュは、自分とは異なる人々に「好意を抱いて」、「想像力で、すんなりと彼らの立場に入りこんでいく」。各人を、「彼自身という型に合わせて肉付け」してやるのだ。モンテーニュが願うのは、なによりも各人が「別々に判断される」ことなのだ。^(注2)

「クセジユ」というモンテーニュの懐疑主義を、超然たる態度や無関心として、あるいは唯我独尊や独立独歩といったイメージで理解するのはまちがっている。その懐疑的な思考は、習慣や法の行使においても適用されて、彼を、多様性を尊重する多文化主義へ、文化相対主義的な方向へと導いている。寛容の思想ともいえる。

古典古代の英知を通じて、人間存在や社会を、神の視点からではなく、人間の視点から見つめ直すというのが「ユマニスム（人文主義）」であった。ピコ・デッラ・ミランドラが『人間の尊厳について』（一四八六年）で、人間の可変性・**d**・自由をカメレオンに喩えていたことを思い出す。そのユマニスムは、ラテン語という、当時の国際語・知識人言語を媒介としている。ユマニストとは、書籍を通して、古典古代の英知を旅するのみならず、「世界市民」たることを理想とする旅人でもあった。モンテーニュもその一人である。

人間の判断力とは、世間と交わることで、驚くべき明晰^{めいせき}さを引き出せるものなのです。われわれはだれも、自分のなかに縮こまって、幾重にも積み重なって、せいぜい鼻先ぐらいまでの視野しか持ちあわせていません。ところがソクラテスは、どここの出身かと聞かれて、「アテナイだ」とは答えずに、「世界だ」と答えたのです。彼は、より充実した、広い想像力の持ち主でしたから、世界をわが町のように包みこんで考えて、自分の知己や、

つきあいや、愛情を、人類全体にまで投企していたのです。自分の足元しか見ないわれわれとはちがうのです。

『エッセー』第1巻・第25／26章「子供たちの教育について」

ユマニズムのキーワードは「汝自身を知れ」^{なんじ}だから、あちこちにソクラテスが出てくる。モンテーニュも、「ソクラテスが語ったからではなく、本当に自分の気持ちであるから」といって、「わたしは、人間すべてを同胞だと考えている。そして、ポーランド人も、フランス人と同じように抱擁するのであり、人類に共通の普遍的な結びつきを優先して、国民としての結びつきはそれより後に置く」と明言している。

「同胞 compatriotes」は「同国人」と訳してもいい。^Dユマニズムとはコスモポリタニズムなのもある。モンテーニュは「世界市民」を理想として、人々の共生を願っていたにちがいない。

（宮下志朗『モンテーニュ——人生を旅するための7章』^{みやしたしろう}）

（注）1 ペリゴール……フランス南西部の旧地名。

2 クセジユ……フランス語で「私は何を知っているのか」という意味。

問一 空欄 a、b、c、d に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

a — 21、b — 22、c — 23、d — 24。

a

⑤	④	③	②	①
恒常的	帰納的	本質的	伝統的	付帯的

b

⑤	④	③	②	①
無化	甘受	成就	抹消	凝視

c

⑤	④	③	②	①
超越的	進歩的	宗教的	普遍的	個別的

d

⑤	④	③	②	①
可決性	可逆性	可視性	可塑性	可否性

問二 傍線部 A 「われわれがキリスト教徒であるのは、われわれがペリゴール人とかドイツ人であるのと同じなのである」とあるが、これはどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **25**。

- ① 人がどういう宗教を信じるかということは、その人がどういう存在かを規定するということ。
- ② 人は生まれた国がどこであるかに関係なく、自分の信じる宗教を自分で決める権利をもつということ。
- ③ 人がどんな宗教を信じるか、どんな出自かといったことは、偶然的なものにすぎないということ。
- ④ 人は国籍を選ぶことができないように、自分の信じる宗教を選ぶこともできないということ。
- ⑤ 人がどのような宗教を信じるかということは、その人がどこで生まれたかで決まるとのこと。

問三 傍線部 B 「このような陰惨な時代」とあるが、本文の趣旨を踏まえて考えた場合、それはどういう「時代」だといえるか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **26**。

- ① 宗派を同じくする者たちが群れを作り、異なる宗派の人々を排除するということが、しばらく続いていた時代。
- ② 同じ宗教内での宗派の違いが意識されるようになり、人々が宗教への懐疑を抱きはじめるようになった時代。
- ③ アンリという名前であるという理由だけで人が殺されてしまうような、凄惨な闘いが繰り返されてきた時代。
- ④ 宗派の違いなどたいした違いではないと考えていた多くの人々が、闘いに巻き込まれて命を失うことになった時代。
- ⑤ 信仰心の強い者が不信心な者を脅迫するといった事態が生じ、両者の間で激しい戦いが繰り返されていた時代。

問四 空欄

X

に入る文として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 27。

- ① 自分と他人との類似よりも自分と他人との差異を尊重する、そうした世間のあり方を見習うべきだ。
- ② 自分を基準にして他人を評価するのではなく、他人から評価されることこそ、われわれの喜びである。
- ③ 世間一般とは反対に、われわれのあいだの類似よりも、差異のほうをすんなり受け入れるのだ。
- ④ 型が存在する以上、われわれは排除に向かわざるをえないのだから、型は破壊しなければならない。
- ⑤ 異なる生き方を排除せず、それを不快に感じて見ぬふりをするのが、人のたしなみである。

問五

傍線部C「各人が人間存在として十全なかたちを備えている」ということは、人間の条件について、その多様性を担保していることになる」とあるが、そのように言えるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 28。

- ① 世の中にはさまざまな文化や環境のなかに生きている人間がいるが、そうした各人も同じ人間であると考えれば、人と人との間に差異があっても、そのことを気にせずにするようになるから。
- ② だれもが人としての条件を十分にもつと考えれば、恵まれない人々に手を差し伸べることができるが、そうしておかないと、自分が不遇な状況に陥ったときに救ってもらえない可能性があるから。
- ③ 自分を重視することは他者を尊重することでもあるのだから、自分が人間としての条件を十分に備えていると考えれば、そうした条件を備えていない他者に対しても寛容になることができるから。
- ④ 各人のあり方をそれぞれの立場から個々に判断すれば、だれもが実人生を生きるうえで条件を十分に備えているということができ、それは人と人との差異を積極的に認めることでもあるから。
- ⑤ 人はだれもが人間としての十分な条件を備えており、その人間同士の中に類似と差異が存在しているのだから、他者との類似に注目すれば、他者との差異にこだわる必要はなくなってくるから。

問六

傍線部D「ユマニスムとはコスモポリタニズムなのでもある」とあるが、ここでいう「コスモポリタニズム」とはどういうものか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **29**。

- ① 「汝自身を知れ」という言葉を教訓とし、自分とは何かということ突き詰めることによって、周囲に左右されることなく自分の力で歩んでいく強靱な精神を養っていくべきだとする考え方。
- ② 自分の本当の気持ちに忠実であろうとすることを第一とし、人間同士の嘘や偽りのない緊密なつながりを模索していくなかで、自身を「世界市民」の一員へと成長させていこうとする考え方。
- ③ 神が人間や人間社会をどう見ているかということを意識しながら、神の前での平等という観念に従い、人と人が対等の立場で結びつき合う普遍的で国際的な社会を実現させていこうとする考え方。
- ④ 法や習慣といった形骸化されたものにとらわれることなく、古典古代の英知を学ぶことを通じて人間存在や社会のあり方を見つめ直し、世界を多文化主義的な方向へ向かわせようとする考え方。
- ⑤ 古典をはじめとするさまざまな書籍を読むことを通じて、人や社会のありようを人間の視点から捉え直し、多様な人々が互いに尊重し合いながら共生できる世界を作り上げていこうとする考え方。

問七 筆者の考えに合致するものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **30**。

- ① 他者を尊重しつづけたモンテーニュであったが、そうした彼の生き方は、自分というものの存在をかぎりなく希薄にしていくことを意味してもいた。
- ② 個を尊重し他者に寛容であることを良しとする思想を、理性の力を借りずに考え出したところに、モンテーニュという思想家の最も大きな特徴がある。
- ③ モンテーニュは自分と他人との間の差異に寛容であったが、そうした態度は、他人は他人であるとしてそれに無関心であるようなあり方とは一線を画すものである。
- ④ 宗教戦争という内乱の時代を生きていたからこそ、モンテーニュは、あらゆる宗教やその党派の間に違いなどないとする「世界市民」的思想を獲得できた。
- ⑤ 他者との差異を認めただうえで他者と共生することなど簡単に実行できるはずだと唱えたモンテーニュは、そうしたことを実行できない人々に批判の目を向けていた。

国語基礎問題 (マークシート式・60分・100点) [マネジメント学部]

大問	小問	細分	正解	配点	大問	小問	細分	正解	配点
I	問一	1	⑤	2点	I	問四	16	④	3点
		2	③	2点			17	⑤	3点
		3	③	2点			18	①	3点
		4	①	2点			19	②	3点
		5	⑤	2点			20	⑤	3点
	問二	6	④	2点	II	問一	21	①	3点
		7	①	2点			22	④	3点
		8	②	2点			23	②	3点
		9	②	2点			24	②	3点
		10	④	2点		問二	25	③	7点
	問三	11	⑧	3点		問三	26	①	6点
		12	⑥	3点		問四	27	③	6点
		13	②	3点		問五	28	④	6点
		14	⑩	3点		問六	29	⑤	6点
		15	⑤	3点		問七	30	③	7点